

2026  
(令和 8 年)

黒木地区自治  
運営協議会

地域愛とともに次世代に夢と希望を

# 黒木地区振興計画



# つなぐ

# あなたとなにを

今の私達のまちづくりではなく、次世代の  
子供や孫の住み易い.. まちづくりの為に  
今の私達の世代が何をすべきか？

「地域愛を根づかせ？  
次世代に夢と希望を.....」

黒木地区自治運営協議会 会長 吉泉正幸

## 目次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 01 黒木地区を取り巻く状況 .....           | 3  |
| 02 地域振興計画策定のプロセス .....         | 5  |
| 03 黒木地区の6つのカテゴリ、課題、ビジョン .....  | 7  |
| 04 専門部会による振り返りと移住者から見た黒木 ..... | 9  |
| 05 10年後の黒木地区 .....             | 11 |

## 資料編

|                    |    |
|--------------------|----|
| ワークショップの取り組み ..... | 15 |
| 人口推移 .....         | 19 |
| アンケート報告書 .....     | 20 |

# つないでいこうか

リレーのバトンを受け取る瞬間  
緊張して鼓動が高鳴る

受け渡すその一瞬  
期待を込めて思わず力がこもる

あの人もこの人も  
この時間とあの時間を  
この景色と暮らしの営みを

そしてその想いを…

このまちには積み重ねてきた時間がある  
想いととともに歴史は生きてきた

過去から今へ  
そして今から未来へ

ひとりひとりの想いが次の時代へ走り出す  
バトンはもう手渡された

どう受け取るのか  
そしてどう未来へ手渡していくのか

黒木地区に暮らすわたしたちは  
これからどのようにつなぐのか

# 01 | 黒木地区を取り巻く状況



## 地名の由来

鎌倉時代の武士、黒木助能（すけよし）が矢部川と笠原川の合流付近に猫尾城を築き、その周辺一帯を黒木と称したことに由来します。

## 地区の成り立ち

- 1888 年  
(明治 21 年) 黒木町・今村・桑原村が合併し、黒木町が誕生
- 1954 年  
(昭和 29 年) 黒木町・豊岡村・串毛村・木屋村・笠原村が合併
- 1957 年  
(昭和 32 年) 大淵村が編入合併
- 1971 年  
(昭和 46 年) 馬場区が黒木地区に編入
- 1975 年  
(昭和 50 年) 西今区が西今区と谷蓮輪区に分かれる
- 2010 年  
(平成 22 年) 黒木町が八女市へ編入合併

## 黒木地区の概要

黒木地区は、八女市黒木町の中心部に位置する、黒木盆地の平坦な地域です。南側を矢部川が流れ、国道 442 号線が地区を東西に走っています。盆地特有の気候により昼夜の寒暖差が大きく、農作物の生育に適した環境です。また、周囲を山々に囲まれ夜間は人工の光が少ないため、天候の良い日には美しい星空を見ることができます。

## 地区へのアクセス



福岡空港から約 1 時間 15 分  
九州道八女 IC から 25 分



JR 鹿児島本線 羽犬塚駅から 46 分  
(堀川バス 羽矢線)

## 教育施設

### 中等教育学校

輝翔館中等教育学校

### 幼稚園・保育園

あゆみこども園  
黒木保育園  
ふじなみ幼稚園

### 中学校

黒木中学校

### 小学校

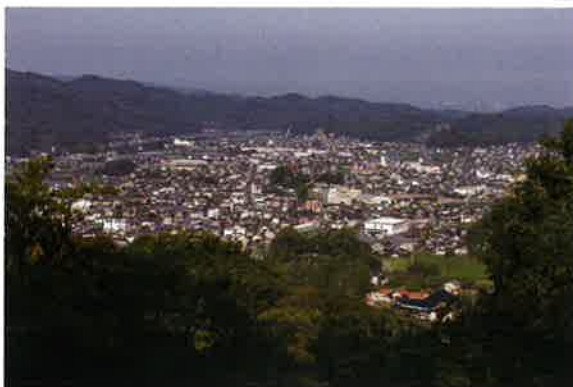
黒木小学校

### その他教育施設

図書館黒木分館  
黒木公民館  
学びの館  
(旧隈本家住宅)

## 人口

人口は昭和 30 年以降、減少傾向にあります。令和 7 年 3 月末時点では、世帯数 1,179 世帯、人口 2,693 人、高齢化率は 41.6%と全国平均を上回っており、人口減少と高齢化が同時に進行しています。



黒木地区 行政区別 人口・世帯数

| 行政区 | 世帯数   | 人口    | 男     | 女     |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| 東上町 | 22    | 61    | 31    | 30    |
| 西上町 | 40    | 86    | 41    | 45    |
| 中町  | 43    | 117   | 59    | 58    |
| 下町  | 45    | 99    | 43    | 56    |
| 栄町  | 74    | 175   | 84    | 91    |
| 東今  | 96    | 199   | 97    | 102   |
| 西今  | 159   | 333   | 160   | 173   |
| 谷蓮輪 | 228   | 491   | 208   | 283   |
| 東桑原 | 78    | 171   | 75    | 96    |
| 西桑原 | 177   | 437   | 202   | 235   |
| 馬場  | 217   | 524   | 242   | 282   |
| 合計  | 1,179 | 2,693 | 1,242 | 1,451 |

黒木地区 年齢別人口

| 年齢        | 計     | 人口比    |
|-----------|-------|--------|
| 15 歳未満    | 240   | 8.9 %  |
| 15 ～ 64 歳 | 1,333 | 49.5 % |
| 65 歳以上    | 1,120 | 41.6 % |
| 総数        | 2,693 |        |

## 産業

黒木地区の産業は、豊かな山々の恵みとともに歩んできた歴史の中で育まれてきました。林業や農業は地域の暮らしを支える基盤となっています。また黒木地区は、周辺の農山村と物資や人が行き交う在郷町として発展し、商業や生活サービスが集まる拠点としての役割も担ってきました。現在は建設業やサービス業、小売業など暮らしを支える業種が中心で、製材業や茶類製造・卸売業など地域資源に関わる産業も見られます。

## 観光資源・史跡



黒木の大藤（素盞鳴神社）



津江神社の樟（クスノキ）



重要伝統的建造物群保存地区



黒木まちなみ交流館



黒木堰と黒木廻水路



鯉の泳ぐ通り



国鉄矢部線黒木駅跡



猫尾城跡

## 02 | 振興計画策定のプロセス

### ● 振興計画とは

黒木地区振興計画は、これからの黒木地区を、地域みんなで考え、つくっていくための道しるべです。

### ● 計画が作られた背景

約 10 年前、少子高齢化や暮らしの変化が進むなかで、地域のつながりや自治のあり方を見つめ直す必要がありました。そこで黒木地区では、地域と行政が協働し、住民アンケートなどをもとに、「地域でできることを地域で考える」ための地域振興計画を策定しました。

それから 10 年。社会や地域の状況が変化するなかで、いまの黒木地区に合ったかたちへと、この計画を更新することになりました。今回の更新では、アンケートに加え、ワークショップを通して、地域に暮らす一人ひとりの声や想いを丁寧に拾い上げ、対話を重ねながら内容をまとめています。この計画は、誰かが決めたものではなく、黒木地区に暮らす私たち自身の想いを映し、どのようにつないでいくのかを考えるための道しるべなのです。



黒木地区自治運営協議会の役員会において、「ローカルダイアログ」を実施し、自分たちが暮らしたいまちの姿を考えました。

各世帯 1 名（18 歳以上）の方からの回答を依頼、協議会で分析集計を行い、6 つの課題カテゴリに分類しました。

地域在住「15 歳～ 64 歳」の有志の方 24 名と協議会役員でワークショップを実施し、地域の課題を対話により 6 つのカテゴリに分類、課題が解決した時の将来の姿をイメージし、将来ビジョンを考えました。



11/27

専門部会による  
振興計画振り返り  
および移住者意見交換

平成 26 年計画を振り返り、現在の地区の変化や課題を考え展望を予測した。あわせて他地域からの移住者を招き、移住者の視点からの黒木地区について意見交換しました。

12/8

協議会正副会長会  
地区ビジョンの検討

ワークショップと専門部会での振り返りをまとめ、地区の将来ビジョン、振興計画原案について検討。地区ビジョンを分かりやすく伝えるための工夫について検討しました。

12/18

2026

3/31

地域振興計画発行





## 教育・子ども

## 課題

## 子どもが自由に遊べる場所が少ない

## 困りごと

- ・校区内に遊具のある公園がない
- ・川遊びができる場所がない
- ・子どもたちが外で遊ばず、体力が落ちている



## 解決のためのアイデア

- ・地域の企業と連携して、親水公園や駅前広場に公園を整備



## 将来ビジョン

- ・外で遊ぶ子どもが増える
- ・子どもの体力が増える
- ・高齢者も見守り
- ・地域で子を育てる
- ・老若男女いろんな人との交流
- ・移住のきっかけに
- ・地区内外から人が集まる
- ・経済効果も期待



## 道路・交通

## 課題

## 公共交通の運行が少なく行動が制限される

## 困りごと

- ・通院や買い物に困る
- ・飲食できる場所が限られる

## 解決のためのアイデア

- ・タクシーの時間延長要望
- ・自動運転バス、ライドシェアなど、次世代移動手段の検討

## 将来ビジョン

- ・町外の人が来やすくなる
- ・町内の人が出かけやすい
- ・住みやすくなる



## 環境・地域資源

## 課題

## 管理が不十分な空地、空家、空店舗が増えている

## 困りごと

- ・雑草等の管理が不十分
- ・防犯面で不安
- ・景観の悪化
- ・倒壊しそうな家がある

## 解決のためのアイデア

- ・物件関係者に空き家バンク等への情報掲載を呼びかける（行政とも連携）

## 将来ビジョン

- ・安全に住みやすくなる
- ・人口増も期待できる

## 人暮らしやすさ

### 課題

- ・街灯がなく、暗くて危ない
- ・気軽に入れる飲食店が少ない、地域内に働ける場所が少ない

### 困りごと

- ・街灯がなく暗く危ないため、子どもの送迎が必要
- ・気軽に入れる飲食店がなくて、お客さんを案内できない



### 解決のためのアイデア

- ・住民の意見を取りまとめ、区長会等から八女市へ街灯設置要望を
- ・起業家への支援（税制優遇、土地提供等）
- ・飲食店開業費用を支援
- ・工場、企業設立補助金の活用
- ・ランチ代の補助
- ・住民が出資者（株主）となりお店を協働して運営

### 将来ビジョン

- ・安心して散歩ができて健康に
- ・子ども送迎せず体力増に
- ・健康的な食事
- ・家事の負担が減る
- ・コミュニティの場に地域外の人がきてくれる
- ・雇用が増える
- ・若者人口が増える
- ・経済効果あり→税収増

## 地域・コミュニティ

### 課題

地域の集まりが減りコミュニティが希薄化している

### 困りごと

- ・以前に比べ交流が少なく寂しい

### 解決のためのアイデア

- ・南仙橋の再建
- ・レンタル自転車の導入
- ・キッチンカーを呼ぶ場所
- ・サップなどの川遊び
- ・花植え活動の充実

### 将来ビジョン

- ・まちが活気づく
- ・住みたい人が増える
- ・地区外から人が来る

## 防災

### 課題

気候変動による熱中症や災害に対する体制が不十分

### 困りごと

- ・異常気象でこれまでに経験したことのない災害に遭う可能性があり不安

### 解決のためのアイデア

- ・高齢者、障がい者など災害弱者の情報を記載した防災マップや連絡網を整備する
- ・地元消防団とも連携する

### 将来ビジョン

- ・子どもから高齢者まで暮らしやすく、地域でのコミュニケーションがとれる

## 04 | 振り返りと移住者から見た黒木

### 専門部会による振り返り 移住者との対話の場をとおり多様な視点から整理



黒木地区には、「環境安心」「ふれあい福祉」「子育て教育」「地域振興」の4つの専門部会があります。各専門部会からメンバーが集まり、平成26年に策定した地域振興計画を起点に、「何が変わり、何が変わっていないのか」を確認しました。そのうえで、今の黒木地区に引き継ぐべき視点を確認しました。

あわせて、他地区から黒木町へ移住してきた6名の方と対話の場を設けました。移住者だからこそ見えている黒木町の魅力や課題、そして地域の中にいるからこそ語れる暮らしの細部。それぞれの視点を重ね合わせることで、黒木地区の現在地と、これからの方向性を多角的に整理しました。

#### 環境安心部会

##### ● 現状と課題 ●

- ・ 芝桜が枯れて跡地が未活用のまま
- ・ 矢部川が変形し危険箇所が増加
- ・ 気軽に集まれる場や公園等がない
- ・ 442号バイパス沿い花整備を継続
- ・ 藤の時期以外の環境活動が不足
- ・ 街灯設置が区費負担では限界
- ・ 清掃活動等は高齢化で担い手不足
- ・ 防犯、防災の講習や訓練が不足

##### ● 将来のありたい姿 ●

- ・ 藤の時期以外にも継続的な活動推進
- ・ 個人任せでない活動体制が整う
- ・ 誰もが集える公園や居場所の整備
- ・ 子どもも安心して過ごせる環境
- ・ 住民の環境意識が高まり行動へ
- ・ 街路灯設置など行政と連携
- ・ 空き家、空き店舗の活用
- ・ 防犯防災の備えが見直される

#### ふれあい福祉部会

##### ● 現状と課題 ●

- ・ 運動行事への参加者が減少
- ・ 運動施設や活動情報の周知不足
- ・ 公園に遊具がなく管理不足
- ・ 健康に心掛けている人は多い
- ・ 高齢者と若者の交流機会が少ない
- ・ 買い物や通院の移動が不便
- ・ 気軽に食事できる場が少ない
- ・ 高齢者の見守りや声かけが不十分

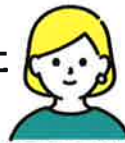
##### ● 将来のありたい姿 ●

- ・ 誰もが楽しく運動に参加できる環境
- ・ 屋内外の運動施設の充実と安全管理
- ・ 運動や活動の情報発信が強化される
- ・ 世代をこえた交流が広がる
- ・ 高齢者が気軽に集まる場や機会増加
- ・ 移動手段が整い外出しやすい
- ・ 緊急時の移動手段が確保できる体制
- ・ 年1で高齢者と子どもが集まる機会
- ・ 見守り体制が地域に根づく

## Looking back and seeing Kuroki from the perspective of an immigrant

### 移住者 からみた黒木

暮らしのテンポが  
ゆるやかで気持ちに  
余白が生まれた



手ごろな家賃で  
理想に近い  
古民家に出会えた



良いまちなので  
観光者向け案内を  
強化するとよい



これまでの経験が  
地域づくりに活か  
されていると感じる



お茶や農の文化が  
特別じゃなく日常に  
溶け込んでいる



何もないことが  
静かな豊かさで  
心地よい



地域の LINE  
グループを作り  
活用してみては？



自然がすぐそばに  
あり四季の移ろい  
を感じられる



地域に関わる中で  
自分も役に立てる  
と感じられるように



人との距離が  
ほどよく顔が見える  
関係が築きやすい



空き家・移住情報を  
積極発信しマッチ  
ングを促進しては？



### 子育て教育部会

#### ● 現状と課題 ●

- ・子どもと散歩して遊ぶ場が少ない
- ・子育て世代と高齢者の交流の不足
- ・子どもを預ける場が限られる
- ・ファミサポ人員の不足
- ・地域が子育てに関わる機会の不足
- ・外で遊ぶ子どもが少ない
- ・元気な地域人材の活用が少ない
- ・子育て観の違いに戸惑いがある

#### ● 将来のありたい姿 ●

- ・子どもが安心して遊べる場がある
- ・世代をこえた交流が日常になる
- ・ファミサポ体制が充実している
- ・子育て支援の充実
- ・地域全体で子育てを支えている
- ・高齢者の知恵が教育に活かされる
- ・学校と地域の連携が深まる
- ・第三の居場所が地域に広がる

### 地域振興部会

#### ● 現状と課題 ●

- ・農業や商業の後継者が少ない
- ・耕作放棄地や空き店舗が増加
- ・担い手の高齢化が進んでいる
- ・個別対応が中心で組織化が不足
- ・観光駐車場や案内板整備が不十分
- ・空き家が増えて安全が損なわれる
- ・南北朝など歴史文化の継承が困難
- ・移住者や外国人材との交流不足

#### ● 将来のありたい姿 ●

- ・空き家、空き店舗が活用される
- ・地域の情報発信力（PR）が強まる
- ・お茶以外の果物などの魅力も発信
- ・農業を望む都市の人とつながる
- ・駐車場や案内板が整備される
- ・まち歩きマップ活用や楽しい仕掛け
- ・学生と交流し地域おこしのヒントに
- ・多様な文化が共生につながる
- ・南北朝などの歴史、伝統文化の継承

## 05 | 10年後の黒木地区

10年後の黒木地区。

世代をこえて人と人がつながり、

支え合いが自然に生まれるまちになっています。

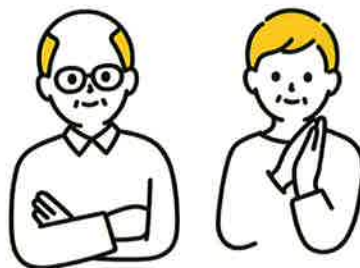


自然の中で元気に遊ぶ子どもたちを、

地域のおとなたちが見守る。

安心して任せられる関係があり、

まち全体で子どもを育てる環境が整っています。



人が集い、対話が生まれ、顔の見える関係が育つことで、

地域コミュニティが日常に息づきます。

そのつながりは、もしもの災害時にも大きな力となります。

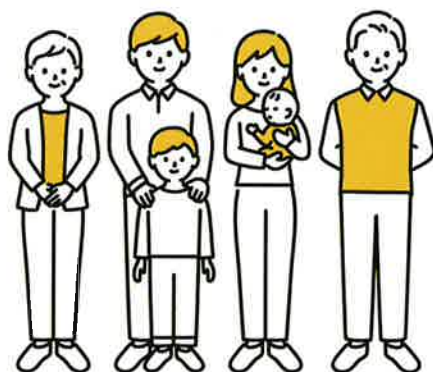
空いてる家や店舗、土地を手放したい人と、活用したい人。

野菜や果物をつくる人と、ほしい人。

挑戦する人と、応援する人。



世代や立場をこえて「できる」と「困った」がつながり、  
暮らしが循環し、共助のまちが育っていきます。



そして、こうしたつながりを、次の世代へ。

人と想いが、世代をこえてつながり続けること。

それが、黒木地区の10年後の姿です。

## 制作協力

平島なおみ  
石橋綾子  
川津誠一郎  
山下寛晴  
坂本叔子  
大津秀喜  
徳永慎太郎  
横溝栞  
宮園すみれ  
酒井清  
井上章  
松木誠  
宮園邦彦  
江上靖則  
横溝浩樹  
楠章吾  
川浪文子  
元平恵美

鶴ヶ野優希  
田中玲子  
似吹恵子  
藤木ケンタ  
野田一勝  
小松純也  
宮川勤治  
三輪知也  
樋口正博  
古賀克己  
河口昭彦  
本村芙美  
鳥取和道  
仁田原正一郎  
齋藤英義  
田中福子  
田中和久  
堤益代

ブランドベリ純子  
小川一彦  
酒井貴子  
山浦幸一  
宮川えみ  
江崎俊男  
小柳徹郎  
小川和博  
藤田公生  
梅野綾子  
上山達也  
柴尾慶司  
加藤龍雄  
山口真人  
原浩晃  
堤裕一郎  
田中義友  
石崎民子

井手口英輔  
小柳幸博  
馬渡裕太  
吉泉正幸  
大塚秀勝  
椿原敦子  
仁田原光法  
船津雅義  
野崎和典  
山本葉月  
平岡亜由美  
川島和生  
樋口悦雄  
秀徳正吾  
龍興貴子  
古賀真理  
  
(順不同)

黒木地区振興計画

# 資料編



## 1. ワークショップの取り組み

黒木地区では、振興計画書の更新にあたり、地域の現状や課題を住民自身の言葉で整理し、今後のまちづくりの方向性を描くことを目的として、全2回のワークショップを実施しました。本ワークショップは、意見を集めること自体を目的とするのではなく、課題の整理、目指すまちの姿の共有、そして課題解決に向けた行動の芽を言語化することをねらいとして実施したものです。

### 1) 参加者構成と進め方

参加者は、黒木地区の各区に居住する生産年齢人口の中から、各区2～3名程度（全体で24名）が参加しました。地域の暮らしや現場をよく知る立場から参加いただくことで、実感に基づいた意見交換と対話が行われました。

ワークショップでは、少人数のグループに分かれて対話を行い、参加者同士が互いの意見に耳を傾けながら考えを深めることを重視しました。

### 2) 第1回ワークショップの取り組み

第1回ワークショップでは、「地域の良いところと課題の共有」「課題のカテゴライズ」「グループづくり」を活動目標として実施しました。参加者は、日頃の暮らしの中で感じている地域の魅力や課題を出し合い、それらを整理・分類する作業を行いました。

また、同じグループで対話を重ねることで参加者同士の関係性づくりを図るとともに、次回のワークショップで話し合うテーマについて意識を共有することを目標としました。

この回を通して、地域の課題は分野ごとに独立しているのではなく、相互に関係し合っていることや、世代や立場が異なっても共通する思いが多いことが確認されました。

### 3) 第2回ワークショップの取り組み

第2回ワークショップでは、第1回で整理した課題の振り返りを行い、参加者がそれぞれ考えてきたことを共有したうえで、課題解決に向けた具体的な行動について話し合いました。活動目標は、対話を通して課題が解決した先の将来ビジョンを描くこと、それに対する解決方法の案を考えることです。

対話では、課題をネガティブに捉えるのではなく「解決したらどうなるか」という視点から将来像を描き、前向きに課題解決の行動を考えることを重視しました。その結果、目指すまちの姿が具体的に語られ、それに近づくための取り組みの方向性が整理されました。

### 4) ワークショップの成果を計画へ

ワークショップで出された意見は「意見まとめ」として整理し、内容の近いものを束ねる形で6つのカテゴリに分類しました。これにより、個別の意見として語られていた課題が、地域全体として共有できるテーマとして可視化されました。

また、カテゴリごとに課題だけでなく、それを超えた先にある「目指すまちの姿（ビジョン）」が言語化されました。これらの成果は、本計画書の「現状と課題、展望」および「今後のまちづくりの方向」を検討するうえでの重要な基礎資料となっています。

## 2. 現状と課題、展望（ワークショップの意見を踏まえて）

ワークショップでは、黒木地区の暮らしの中で日常的に感じられている課題について意見交換を行い、その解決によって実現したい地域の姿を具体的に描きながら整理を行いました。意見は整理・分析され、主に以下の視点から課題と展望が示されました。

### 道路・交通

地域内の交通手段が限られていることが、日常生活の利便性の低下や地域外からの来訪のしにくさにつながっているとの意見が出されました。交通環境が改善されることで、町外の人を訪れやすくなるとともに、町内の人の移動もしやすくなり、住みやすさの向上につながることが期待されています。具体的には、タクシー運行時間の延長や、自動運転バス、町営ライドシェアなど新たな交通手段の導入が提案されました。

### 環境・地域資源

人が自然と集まる場所が少ないことが、地域の活気を弱めているとの意見がありました。矢部川沿いの整備や回遊ルートの形成などにより、人が集まり交流が生まれる場をつくることで、地域資源を生かしたにぎわいづくりや地域内外の交流促進につなげていくことが期待されています。

### 教育・子ども

子どもが自由に遊べる場所や、自転車の練習ができる安全な場所が少ないことが課題として挙げられました。交通の便の良い場所に公園を整備し送迎手段を組み合わせることで、遊びの機会

を広げるとともに、移住のきっかけにもつながるのではないかという意見が出されました。また、矢部川を地域資源として捉え、安全に川遊びができる場所の整備にも期待が寄せられました。

### 暮らしやすさ

地域内に気軽に食事（特に昼食）ができる場所が少ないことが、交流の機会や生活の利便性を下げているとの声がありました。食事の場が増えることで、コミュニティ形成や健康づくり、家事負担の軽減につながることが期待されています。また、街灯の不足による安全面への不安や、働く場所の少なさによる若者流出も課題として挙げられました。

### 地域・コミュニティ・防災

交流機会の減少によるコミュニティの希薄化も課題として共有されました。南仙橋の再建やレンタル自転車、キッチンカー、花植えなどの参加型活動を通じて、人が集い交流が生まれる機会を増やしていくことが提案されました。また、災害時に備えた連絡体制の整備や高齢者等の把握、消防団との連携、空き家・空き地への対応の必要性も指摘されました。

### 3. 今後のまちづくりの方向（基本方針・アクション）

黒木地区の今後のまちづくりは、ワークショップを通じて整理された課題やビジョンを踏まえ、住民・自治運営協議会・行政がそれぞれの役割を果たしながら、段階的かつ継続的に取り組んでいくことを基本とします。以下に、今後のまちづくりの方向性と、主な取り組みの考え方を示します。

#### 基本方針1

##### 誰もが移動しやすく、暮らし続けられるまちづくり

高齢者や子どもを含め、すべての世代が安心して移動できる環境を整えることで、日常生活の利便性を高めるとともに、地域外との交流を促進します。

#### 主なアクション（例）

- ・ タクシー運行時間の延長や利便性向上に向けた関係機関との協議
- ・ 町営ライドシェアや新たな交通手段（自動運転バス等）の導入可能性の検討
- ・ 交通弱者の移動実態を把握し、地域の実情に合った移動支援策の検討

#### 基本方針2

##### 日常の暮らしを支え、交流が生まれる生活環境づくり

食事や集いの場などの生活環境を整えることで、住民同士の交流を促し、地域のにぎわいや健康づくりにつなげます。

#### 主なアクション（例）

- ・ 地域内で食堂や交流拠点を立ち上げる人への支援制度の検討
- ・ 住民が関わりながら運営を支える仕組みづくりの検討
- ・ 街灯の設置や更新に向けた要望活動の推進と、安全な歩行環境の確保
- ・ 雇用の場創出に向けた土地活用や制度活用の検討

#### 基本方針3

##### 子どもがのびのび育ち、学びと遊びが循環するまちづくり

子どもが安心して遊び、学び、地域と関わる機会を増やすことで、健やかな成長を支え、子育て世代が住み続けたいと感じられる環境を整えます。

#### 主なアクション（例）

- ・ 自由に遊べる公園や屋外空間の整備に向けた検討
- ・ 安全に川遊びができる場所の整備に向けた調査・検討
- ・ 学校や地域と連携した体験活動の充実

#### 基本方針 4

### 災害に強く、支え合える安全・安心なまちづくり

災害時にも平時にも機能する人のつながりを大切にし、誰一人取り残さない安全・安心な地域づくりを進めます。

#### 主なアクション（例）

- 高齢者や障がいのある方、一人暮らしの方の把握と見守り体制の検討
- 災害時に機能する連絡網や情報共有体制の整備
- 地元消防団や関係団体との連携強化
- 空き家・荒地の現状把握と、安全確保に向けた対応の検討

#### 基本方針 5

### 地域資源を生かし、人が集い、つながるまちづくり

黒木地区の自然や歴史、地域資源を生かし、人が集い、交流が生まれる場を創出することで、地域の魅力と活力を高めます。

#### 主なアクション（例）

- 矢部川沿いの環境整備と利活用の検討
- 回遊ルートの形成やレンタル自転車等の導入検討
- キッチンカーや体験型イベントなどによるにぎわいづくり
- 行政補助制度の活用や関係団体との連携による事業推進

# 黒木地区振興計画アンケート報告書

黒木地区自治運営協議会

## 1. 配布、回収概要

### (1) 配布方法

アンケートは、各世帯につき1名（18歳以上）の方にご回答をお願いしました。

### (2) 回収方法

アンケートは、令和7年2月22日までに、各隣組長を通じて回収しました。

### (3) 回収状況

#### 【行政区別】

| 行政区名 | 配布数 | 回収数 | 回収率 | 行政区名 | 配布数   | 回収数 | 回収率 |
|------|-----|-----|-----|------|-------|-----|-----|
| 東上町  | 19  | 18  | 95% | 西今   | 149   | 82  | 55% |
| 西上町  | 37  | 25  | 68% | 谷蓮輪  | 203   | 148 | 73% |
| 中町   | 44  | 38  | 86% | 東桑原  | 65    | 56  | 86% |
| 下町   | 35  | 34  | 97% | 西桑原  | 148   | 138 | 93% |
| 柴町   | 68  | 40  | 59% | 馬場   | 183   | 157 | 86% |
| 東今   | 86  | 61  | 71% | 合計   | 1,037 | 797 | 77% |

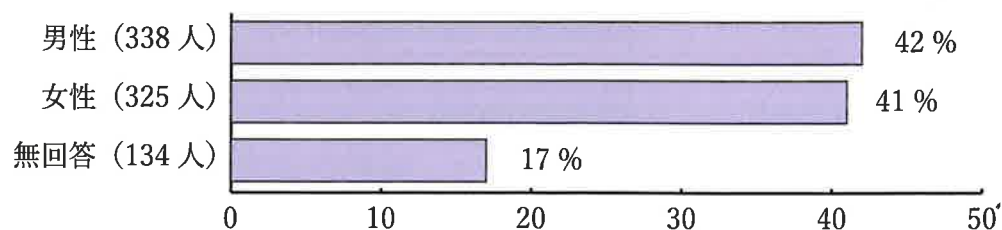
#### 【年齢別】

| 行政区名 | 18-29歳 | 30歳 - | 40歳 - | 50歳 - | 60歳 - | 70歳 - | 80歳 - | 不明 | 合計  |
|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-----|
| 東上町  |        | 1     |       | 4     | 4     | 4     | 5     |    | 18  |
| 西上町  |        | 1     | 1     | 3     | 6     | 8     | 6     |    | 25  |
| 中町   |        | 1     | 4     | 3     | 9     | 14    | 7     |    | 38  |
| 下町   |        | 2     |       | 4     | 13    | 8     | 7     |    | 34  |
| 柴町   | 1      |       | 5     | 4     | 6     | 12    | 10    | 2  | 40  |
| 東今   | 1      | 1     | 5     | 6     | 14    | 22    | 11    | 1  | 61  |
| 西今   |        | 1     | 4     | 12    | 31    | 25    | 9     |    | 82  |
| 谷蓮輪  | 4      | 15    | 22    | 20    | 29    | 39    | 16    | 3  | 148 |
| 東桑原  |        | 1     | 7     | 10    | 9     | 16    | 9     | 4  | 56  |
| 西桑原  | 1      | 5     | 17    | 22    | 39    | 32    | 18    | 4  | 138 |
| 馬場   |        | 4     | 13    | 31    | 34    | 50    | 14    | 11 | 157 |
| 合計   | 7      | 32    | 78    | 119   | 194   | 230   | 112   | 25 | 797 |

## 2. 集計結果

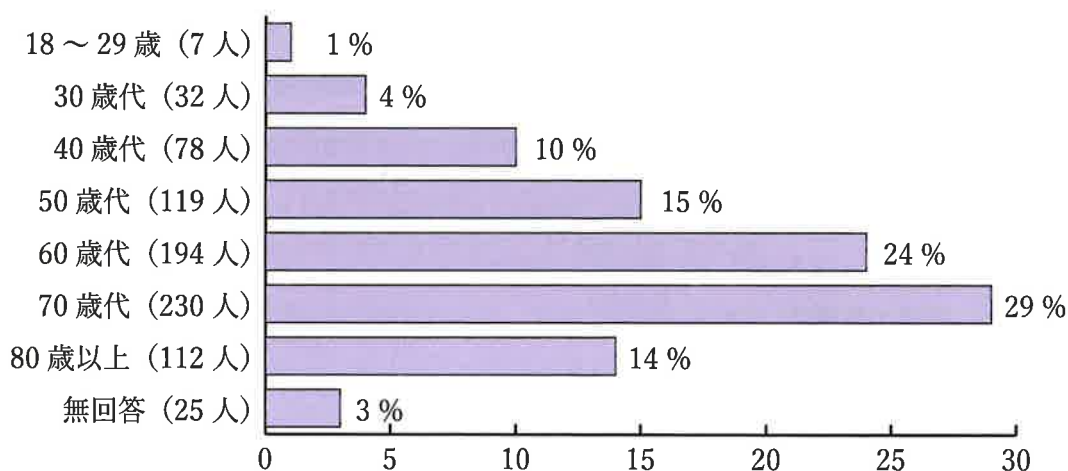
### 問1 あなたご自身についてお尋ねします。

#### 性別



男女別の回答者数は、男性 42%、女性 41%、無回答 17%となっており、回答者の男女構成に大きな偏りはない。

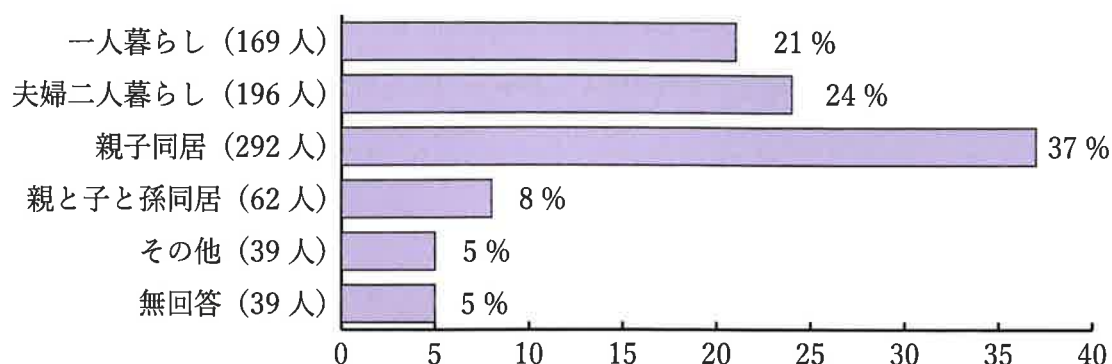
#### 年齢



年代別の回答者数は、70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代となっている。

50 歳代以下は 30%であり、全体の 70%以上が 60 歳以上の回答者となっている。

#### 世帯構成

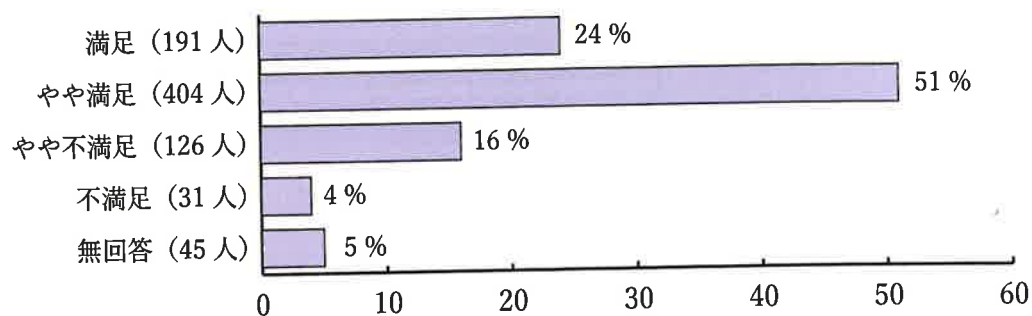


回答者の世帯構成は、親子同居（二世帯同居）の回答者が 37%と最も多い。

次いで、夫婦二人暮らしが 24%、一人暮らしが 21%となっており、

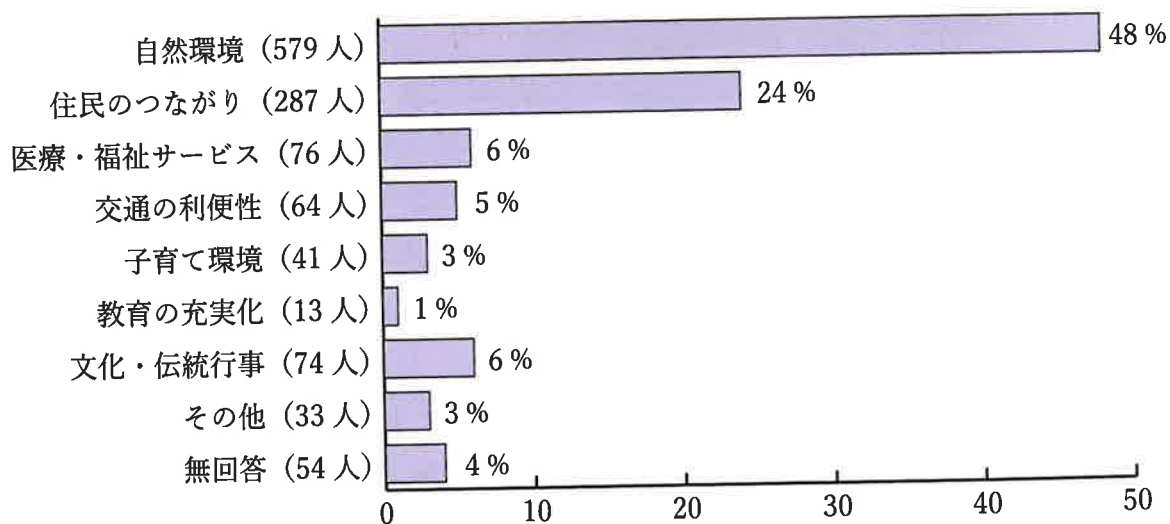
核家族や一人暮らしの割合が多くなっている。

## 問2 現在の黒木地区での生活に満足していますか。



回答者の75%が「満足」「やや満足」と答えている。4人に3人が満足している一方で、20%の人が「やや不満足」「不満足」と感じている。

## 問3 黒木地区で最も良いと感じる点は何ですか。(複数選択可)

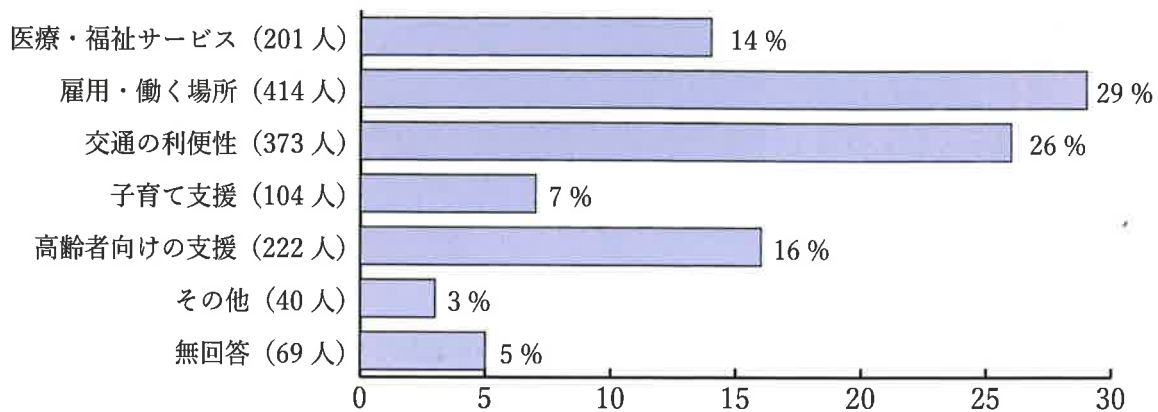


回答者の48%と、約半数が自然環境が最も良いと答えている。

次いで24%が「住民のつながり」と回答している。

自然環境と地域の温かさを魅力として感じている人が多いと言える。

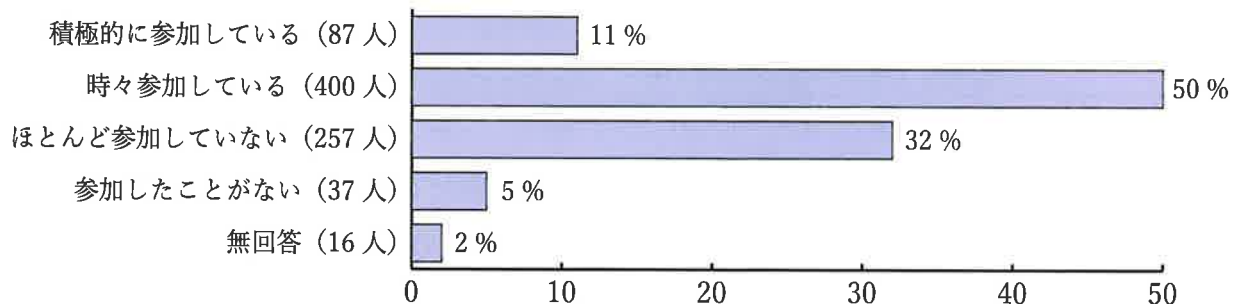
#### 問 4 黒木地区で改善が必要だと思う点は何ですか。（複数選択可）



改善が必要だと思う点は、「雇用・働く場所」が最も多く29%となっている。

次いで「交通の利便性」が26%となっている。そのほか、「高齢者向けの支援」や「医療・福祉サービス」「子育て支援」などが続いている。

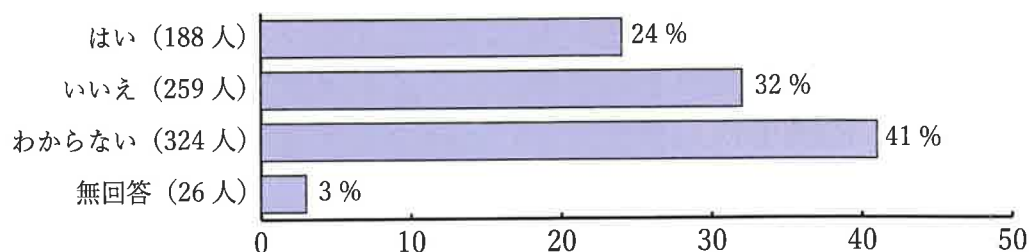
#### 問 5 あなたは黒木地区のイベントや行事にどのくらい参加していますか。



「積極的に参加している」「時々参加している」を合わせると61%が参加している。

一方で、「ほとんど参加していない」「参加したことがない」を合わせると37%となっており、魅力あるイベントや行事づくりが求められる。

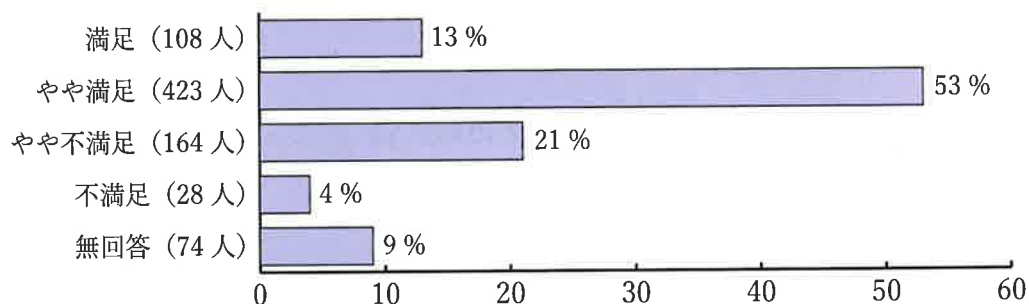
**問 6 黒木地区のイベントや行事にもっと参加したいと思いますか。**



「はい」が24%、「いいえ」が32%、「わからない」が41%である。

「いいえ」「わからない」と回答した人にも参加したいと思ってもらえるような、イベントや行事の工夫が必要である。

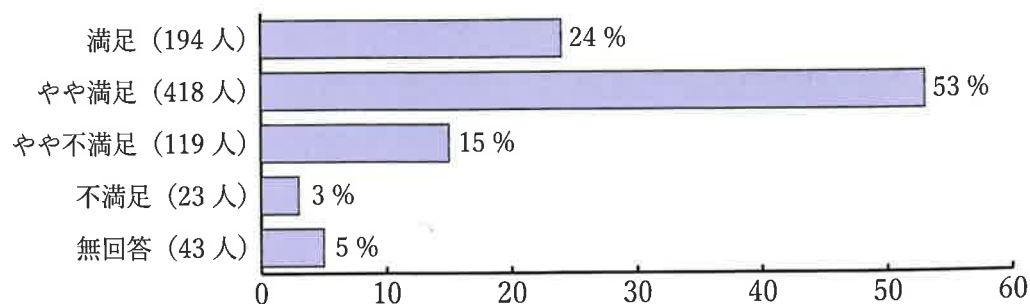
**問 7 黒木地区でのコミュニケーションは満足だと感じますか。**



回答者の「満足」「やや満足」を合わせると66%である。

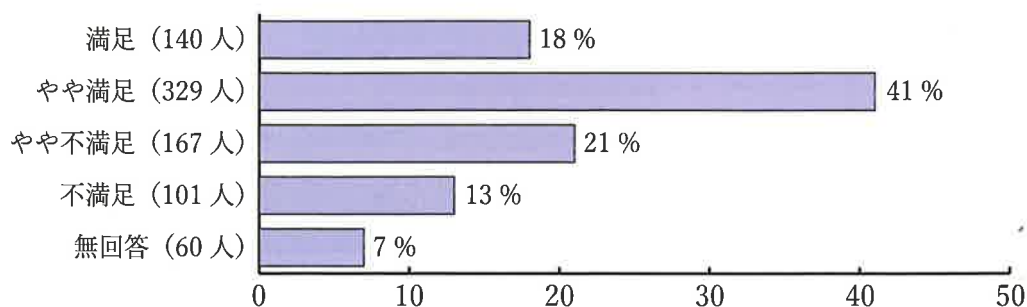
「やや不満足」「不満足」は25%である。人との関わりに満足している人が多い一方で、不満を感じている人も一定程度いる。

**問 8 広報紙など、八女市及び地域からの情報発信は十分だと思いますか。**



回答者の「満足」「やや満足」を合わせると77%と高い。「不満足」は3%である。広報八女などの充実やFM八女、防災ラジオなどにより、情報が得やすくなっているのでは、と考えられる。

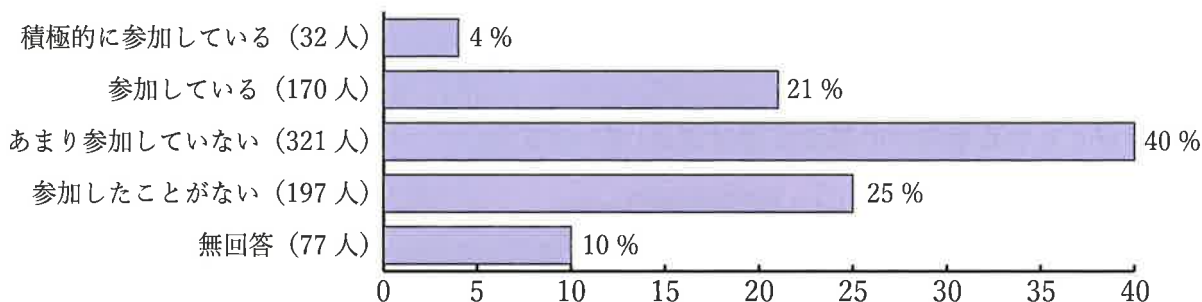
**問 9 黒木地区内での移動手段に満足していますか。**



回答者の「満足」「やや満足」を合わせると 59%である。

一方で、「やや不満足」「不満足」は 34%である。近くに病院や買い物ができる場所があることが背景にあると考えられるが、不満を感じている回答者も比較的多い。

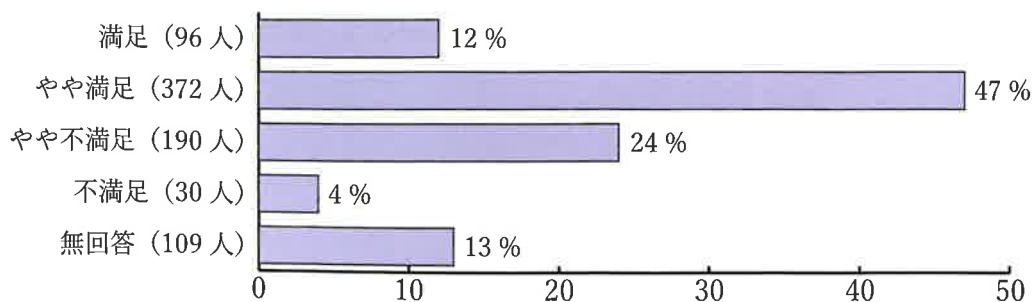
**問 10 あなたは黒木地区内での防災活動（訓練や情報提供など）に参加していますか。**



回答者の 25%が何らかの形で参加している。一方で、「あまり参加していない」

「参加していない」は 65%と高い。防災に関する意識を高めることや、具体的な訓練などの充実が必要であると考えられる。

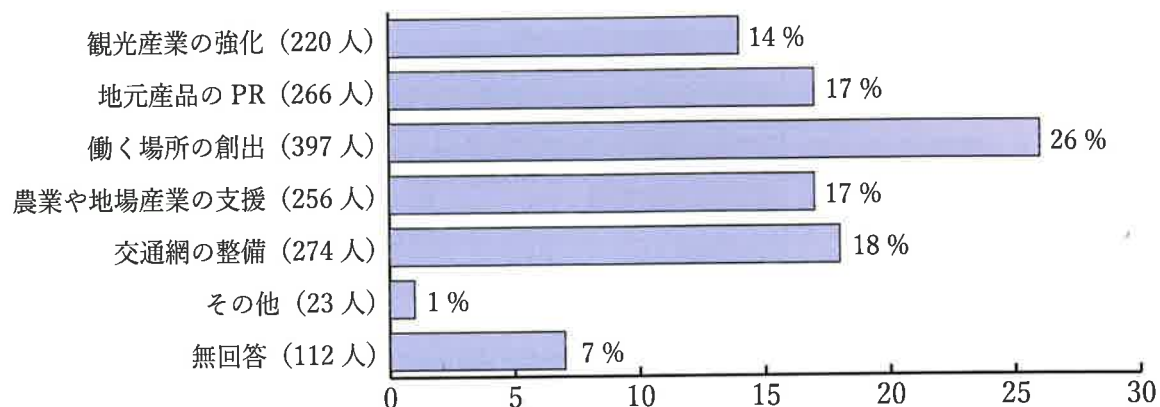
**問 11 防災や災害対応に関する情報提供は十分だと感じますか。**



回答者の「満足」「やや満足」を合わせると 59%である。

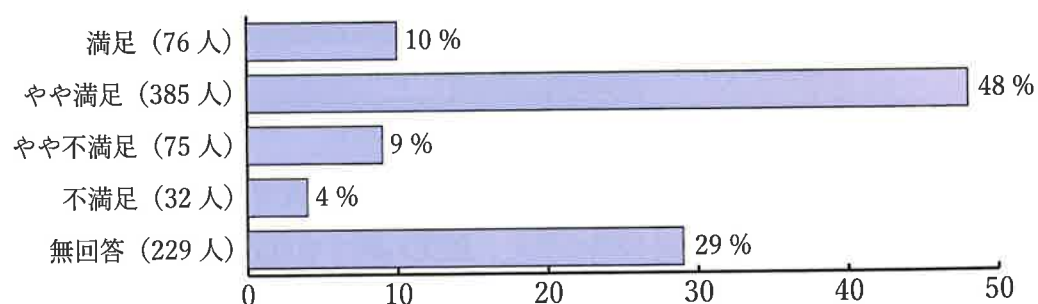
また、「やや不満足」「不満足」は 28%である。情報誌や防災ラジオ、携帯からの情報が充実してきている一方で、まだ十分ではないと感じている回答者もいる。

問 12 黒木地区の商業や産業の活性化のために何が必要だと思いますか。（複数選択可）



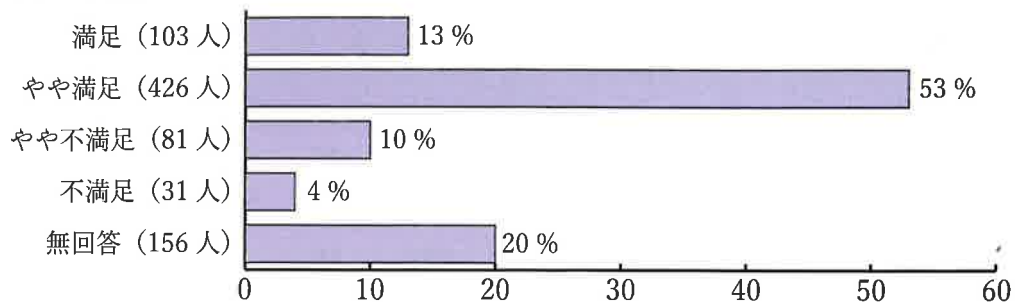
「働く場所の創出」が26%で最も多い。次いで「交通網の整備」が18%となっており、そのほか「農業や地場産業の支援」「地元製品の PR」「観光産業の強化」などが続いている。町の活性化には、雇用の創出が重要であると捉えられている。

問 13 子どもや若者向けの教育支援は満足していますか。



回答者の「満足」「やや満足」を合わせると58%である。また、「やや不満足」「不満足」は13%である。しかし、子育て世代の回答者の割合が少ないため、年代別のクロス集計による分析も必要である。

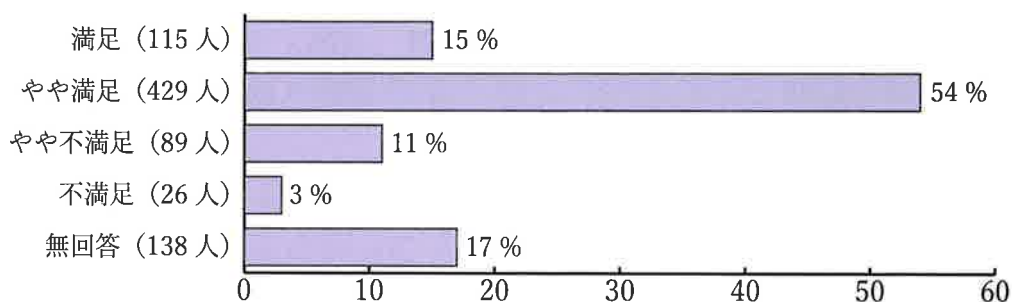
**問 14 高齢者向けの支援は満足していますか。**



回答者の「満足」「やや満足」を合わせると 66%である。

また、「やや不満足」「不満足」は 14%である。一定の満足度はあるが、今後の高齢社会を見据えた取り組みの充実が必要である。

**問 15 黒木地区での医療・福祉サービスに満足していますか。**

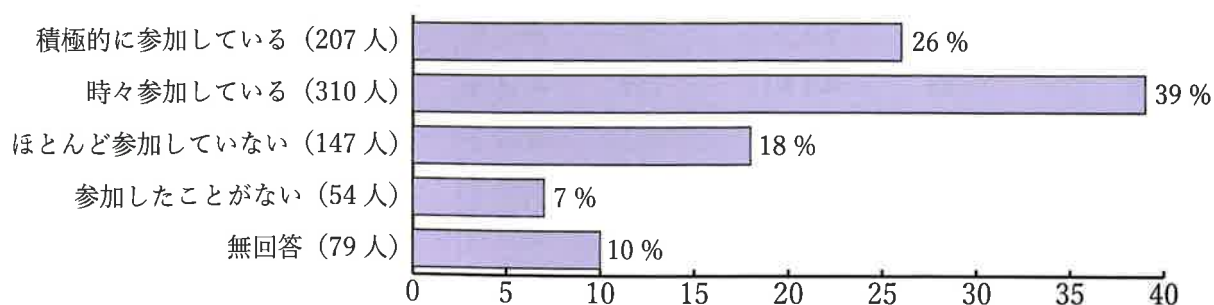


回答者の「満足」「やや満足」を合わせると 69%である。

また、「やや不満足」「不満足」は 14%、無回答は 17%である。

一定の満足度はあるものの、高齢社会が進む中、医療・福祉サービスに向けた取り組みの充実が必要である。

**問 16 黒木地区の美化活動や清掃活動にどの程度参加していますか。**



回答者の「積極的に参加」「時々参加」を合わせると 65%と高い。

一方で、「ほとんど不参加」「不参加」は 25%である。不参加者も巻き込んだ地域美化活動や清掃活動の充実が望まれる。

### 行政区別人口及び世帯数の推移

| 行政区 | 平成 27 年 |       |       |       | 令和 2 年 |       |       |       | 令和 7 年 |       |       |       |
|-----|---------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
|     | 世帯数     | 人口    | 男     | 女     | 世帯数    | 人口    | 男     | 女     | 世帯数    | 人口    | 男     | 女     |
| 東上町 | 29      | 88    | 42    | 46    | 26     | 76    | 37    | 39    | 22     | 61    | 31    | 30    |
| 西上町 | 50      | 119   | 53    | 66    | 37     | 90    | 41    | 49    | 40     | 86    | 41    | 45    |
| 中町  | 50      | 152   | 72    | 80    | 47     | 125   | 62    | 63    | 43     | 117   | 59    | 58    |
| 下町  | 51      | 142   | 66    | 76    | 44     | 113   | 53    | 60    | 45     | 99    | 43    | 56    |
| 栄町  | 70      | 226   | 108   | 118   | 71     | 204   | 99    | 105   | 74     | 175   | 84    | 91    |
| 東今  | 108     | 278   | 127   | 151   | 106    | 238   | 110   | 128   | 96     | 199   | 97    | 102   |
| 西今  | 171     | 460   | 222   | 238   | 164    | 392   | 183   | 209   | 159    | 333   | 160   | 173   |
| 谷蓮輪 | 213     | 599   | 266   | 333   | 215    | 535   | 228   | 307   | 228    | 491   | 208   | 283   |
| 東桑原 | 70      | 187   | 86    | 101   | 79     | 195   | 89    | 106   | 78     | 171   | 75    | 96    |
| 西桑原 | 163     | 507   | 239   | 268   | 165    | 459   | 207   | 252   | 177    | 437   | 202   | 235   |
| 馬場  | 193     | 616   | 282   | 334   | 207    | 593   | 276   | 317   | 217    | 524   | 242   | 282   |
| 合計  | 1,168   | 3,374 | 1,563 | 1,811 | 1,161  | 3,020 | 1,385 | 1,635 | 1,179  | 2,693 | 1,242 | 1,451 |

※ いずれも 3 月末時点

### 行政区別、年齢階層別人口

| 行政区 | 0-14 歳 | 比率     | 15-64 歳 | 比率     | 65 歳以上 | 比率     | 合計    |
|-----|--------|--------|---------|--------|--------|--------|-------|
| 東上町 | 7      | 11.4 % | 27      | 44.3 % | 27     | 44.3 % | 61    |
| 西上町 | 6      | 7.0 %  | 39      | 45.3 % | 41     | 47.7 % | 86    |
| 中町  | 15     | 12.8 % | 39      | 33.3 % | 63     | 53.9 % | 117   |
| 下町  | 8      | 8.1 %  | 47      | 47.5 % | 44     | 44.4 % | 99    |
| 栄町  | 11     | 6.3 %  | 89      | 50.9 % | 75     | 42.8 % | 175   |
| 東今  | 12     | 6.0 %  | 88      | 44.2 % | 99     | 49.8 % | 199   |
| 西今  | 28     | 8.4 %  | 159     | 47.7 % | 146    | 43.9 % | 333   |
| 谷蓮輪 | 52     | 10.6 % | 271     | 55.2 % | 168    | 34.2 % | 491   |
| 東桑原 | 15     | 8.8 %  | 84      | 49.1 % | 72     | 42.1 % | 171   |
| 西桑原 | 37     | 8.5 %  | 226     | 51.7 % | 174    | 39.8 % | 437   |
| 馬場  | 49     | 9.4 %  | 264     | 50.4 % | 211    | 40.2 % | 524   |
| 合計  | 240    | 8.9 %  | 1,333   | 49.5 % | 1,120  | 41.6 % | 2,693 |

※ 令和 7 年 3 月 31 日現在



# 黒木地区振興計画

発行：令和 8 年 3 月

企画・編集：黒木地区自治運営協議会

令和 7 年度 八女市地域づくり提案事業

制作支援・ワークショップ企画：まちづくり団体「あとおし」

<https://atooshiyame.jp/>

あとおしは令和5・6・7年度 八女市 市民との協働によるまちづくり提案事業の採択団体です。